

31E13-pm07

中国四川省産キク科 *Ligularia virgaurea* の新規セスキテルペン二量体

○齋藤 義紀¹, 高島 由利子¹, 岡本 育子¹, Xun GONG², 黒田 智明³, 通 元夫¹
(¹徳島文理大薬, ²昆明植物研, ³立教大理)

【目的】我々は、世界有数の植物種の宝庫である中国横断山脈地域に 100 種以上が生息するキク科 *Ligularia* 属植物を中心的題材として、同一種内あるいは近縁種間の多様性に関する調査を行っている。これまで *L. virgaurea* に関しては、大きく 5 種の成分パターンが存在することを明らかにしてきた。今回、TLC および LC-MS 分析によって、さらなるバリエーションの存在が示唆されたため、詳細に成分研究を行うこととした。

【方法・結果】2010 年に四川省北西部で採集した試料の根を酢酸エチルで抽出し、得られたエキスを各種クロマトグラフィーを用いて精製した。その結果、化合物 1 や 2 のような新規セスキテルペン二量体や、化合物 3 のように、 β,γ -エポキシ- γ -ラクトン構造を有する多くの新規エレモフィラン型およびバツカン型化合物を単離・構造決定した。成分組成は、いずれも既知のタイプがベースとなっており、そこからさらに酸化や骨格転位が進行したものや、複数の成分タイプの混合型のようなものであった。

